

小児神経学の進歩 第15集

日本小児神経学会卒後教育委員会 編

＝目 次＝

＝診察・診断法＝

神経学的所見のとり方—小児—	竹 下 研 三	1
I 診察上での原則		1
II 観 察		2
III 一般理学的所見		4
IV 神経学的所見		4
神経学的所見のとり方—成人—	柴 崎 浩	9
I 3-step diagnosis と病歴の重要性		9
II 神経学的診察の進め方		11
III 神経学的診察の手順と所見のとり方		11
小児神経疾患への短潜時体性感覚誘発電位の応用	橋 本 俊 顕	21
I 記録方法		21
II 遠隔電場電位 far field potential		21
III 誘発波		22
IV 各成分波の命名および起源		24
V 頂点および頂点間潜時の加齢による変化		25
VI 神経疾患児の SSEP		26
小児神経疾患の生検診断	山 野 恒 一	38
I 皮膚生検法		38
II 蓄積性脳変性疾患の皮膚生検所見		39
III 生検皮膚の形態学的観察の問題点		46
IV その他の形態学的診断法		46

＝Clinical Pathological Conference (C. P. C.) I＝

慢性中耳炎に意識障害・片麻痺を合併し死亡した幼児例	51
---------------------------	----

[司 会] 山 野 恒 一
[症例担当] 宇 都 宮 琢 史
[病理担当] 山 野 恒 一
 惟 任 修

小児脳腫瘍の診断・治療	松 本 悟	62
I 小児脳腫瘍の診断		62
II 小児脳腫瘍の治療		67
III 小児脳腫瘍の長期予後		73

てんかんおよびてんかん発作型の分類と治療的対応	大田原俊輔	77
I てんかん発作およびてんかんの分類		77
II てんかんの診断		85
III 小児てんかんの治療		86
中枢性協調障害と脳性麻痺について	富雅男	94
I 正常運動発達からみた脳性運動障害に対する 早期発見・早期治療について		94
II 全体的アプローチとしての運動機能と解析的アプローチ としての反射反応について		95
III 移動運動および合目的な把握運動の構成要素		96
IV 姿勢反応について		97
V 姿勢反応と中枢性強調障害の概念とその臨床的意義		99
VI 中枢性協調障害における障害度の分類		100
VII 中枢性協調障害と脳性麻痺の姿勢反応		101
中枢神経系の可塑性—大脳の神経回路と機能の生後発達—	外山敬介, 小松由紀夫, 中嶋章作	110
I 大脳視覚中枢の働き		110
II シナプス学習		114
III 認識学習のモデル: パーセプトロン		114
IV 視覚機能の生後発達		116
V 可塑性の役割		122

=Clinical Pathological Conference (C. P. C.) II=

知能障害, 進行性ジストニーを呈した9歳男児例		125
	[司会] 熊谷公明	
	[症例担当] 黒川徹	
	[病理担当] 長柄均	

=Clinical Conference (C. C.) =

動作の稚拙化と性格変化で発症し, 6カ月後除脳硬直をきたした男児例		142
	[司会] 児玉荘一	
	[症例担当] 児玉荘一	
	西尾久英	

ウイルスによる脳炎・髄膜炎	森島恒雄	154
I ウイルスによる神経病原性の発現		154
II 髄膜炎		156
III 脳炎		157
IV 診断法		161
V 治療法		162

小児の心身症	富田和巳	168
I 心身症の定義		168
II 心身症の分類		169
III 心身相関について		169
IV 心身症をどう診るか		169
V 小児の心身症とその周辺		175
VI 日常よくみる心身症		177
VII あまり多くはないが重要な心身症		178

小児神経学 1985 年度の展望

はじめに	島田司巳	181
診断技術	飯沼一字	181
新生児神経学	渡辺一功	182
先天異常—特に脳奇形	石川丹	184
炎症性疾患	村田良輔	185
小児てんかん	岡 鏊次	186
変性・代謝性疾患	鈴木義之	187
神経筋・筋疾患	大澤真木子	188
発達障害	長島忠昭	190
小児脳神経外科	佐藤 潔	192
精神発達遅滞, 心身症, 社会医学	熊谷公明	193
境界領域	島田司巳	194